

テレワーク・在宅勤務における 労働環境の問題と今後の課題

座長

中原 浩彦

ENEOS株式会社 環境安全部 産業衛生グループマネージャー

持続的な成長のために、業務効率化や人材の活用という観点で、デジタル機器の活用を通じたテレワーク・在宅勤務による働く方改革が議論されてきた。平成28年には、内閣官房長官指示により、関係府省連絡会議を開催し、テレワーク推進に向けた各府省の取組の共有や連携施策の検討・推進が加速された。また、2019年には、東京オリンピック前の本番テストとしてテレワーク・デイズが実施されるなど、テレワーク推進施策も実施された。ただ、現実的には本格的にテレワークが普及したのは、COVID-19の蔓延に伴い、やむを得ず在宅勤務をせざるを得なくなってからであろう。それに伴い、メンタルヘルスや人間工学的な課題など、様々な労働環境の課題が顕在化してきた。

今回の産業衛生技術シンポジウムでは、テレワーク・在宅勤務についての問題点を明確にして、産業保健従事者が解決すべき点を議論し、課題解決が加速することを期待している。

■ 略歴 ■ 中原 浩彦

労働衛生コンサルタント(労働衛生工学)

1992年に東京大学大学院工学系研究科卒業工業化学専攻 同年東燃株式会社に入社し、同社総合研究所で勤務。2009年5月より医務産業衛生部のインダストリアルハイジニスト(IH)として、東燃ゼネラル石油川崎工場においてIH業務を遂行。2015年5月から本社産業衛生部長として全社産業衛生業務を統括。2017年4月のJXTGエネルギー株式会社発足に伴い産業衛生グループマネージャー就任。現在はプリンシパルスペシャリストとして産業衛生活動の技術的支援を推進。2021年にNAOSHコンサルティング開業。